

「第 18 回東海・北陸ブロック老健大会 静岡」を終えて～御礼～

小出 幸夫

「第 18 回東海・北陸ブロック老健大会 静岡」を無事終了しました。大会の準備や運営に多数の皆様の惜しみないご尽力とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。又、ご多忙の中、大会に参加そして演題発表を行って頂きました会員の皆様方にも心より御礼申し上げます。この大会の参加者は現地参加 488 名、オンデマンド配信参加は 59 施設（177 名換算）、計約 665 名に上り目標の 600 名をクリアしたと思っています。

振り返れば、最後に集会形式が行われた当大会は 2019 年の愛知での第 15 回大会でした。翌年の岐阜第 16 回大会はコロナ禍で誌上発表に終わり、2021 年の石川第 17 回大会は延期され、2022 年にオンラインで見事に開催されました。第 18 回大会は集会形式を基本とし、オンデマンド配信を導入いたしました。集会形式での開催は実に 4 年振りとなります。オンデマンド配信はコロナ禍での大会開催に対する実験的な試みです。今後の大会運営の参考となれば幸いです。基調講演は厚労省 老健局 老人保健課課長の古元重和先生に依頼しました。演題は「介護老人保健施設への期待」でした。1. 地域包括ケアシステムの進化・推進、2. 自立支援・重度化防止を重視した、質の高い介護サービスの推進、3. 介護人材の確保、4. 令和 6 年度介護報酬改定に向けて等の内容で、何れも老健施設に必要な課題に関する情報を提供していただきました。記念講演は巷間介護のカリスマと言われている高口光子様に依頼し、「本物のケア 高齢者を支えるケアとは」と題して行われました。事例紹介も含め分かり易く感動的な講演でした。両講演は参加者の皆様にとって大変有意義なものとなったと推察しております。一般演題のテーマは、当初心配した程 COVID-19 に偏ることなく、多岐に渡り様々な取り組みが紹介され、活発な質疑応答が行われ感銘を受けました。この大会はご時勢のため、コンパクトに致しました。質疑応答にも十分な時間が取れず、懇親会も行いませんでした。それにもかかわらず、参加者の皆様方は非常に熱心で、フロアでのディスカッションが見掛けられました。集会形式ならではの施設間の交流により、新たな知識やアイデアを共有できたのではと密かに期待しております。

尚、来年は「第 35 回全国介護老人保健施設大会」が岐阜で行われるため、「第 19 回東海・北陸ブロック老健大会 富山」は 2025 年に延期となりました。来年の岐阜全国大会が盛会となるよう皆様のご協力をお願い致します。第 18 回東海・北陸ブロック老健大会は無事終了しましたが、オンデマンド配信はこれからとなります。オンデマンド配信に関する感想、質問等ありましたらご連絡を頂ければ幸甚です。それではひとまず御礼申し上げます。欄筆します。